

国立国会図書館利用案内

来館利用案内（自動応答） 電話03（3506）3300（音声サービス）
電話03（3506）3301（FAX サービス）

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

利用できる人 満18歳以上の方

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

東京本館 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03（3581）2331

サービス時間

閲覧：9：30～17：00 即日渡し複写受付：10：00～16：00
資料請求受付：9：30～16：00 後日渡し複写受付：10：00～16：30

休館日 日曜日、第1・第3以外の土曜日、国民の祝日・休日、年末年始、第1・第3開館土曜日の直後の月曜日（休日にあたる場合はその翌日）、資料整理休館日（1・4・7・10月の第3土曜日の直前の水曜日）

音楽・映像資料室は、休館日以外に第1土曜日が休室となります。このほか登録制の一般研究室があり、19：00まで利用できます（土曜日は17：00まで）。視覚に障害がある方のご利用については、利用者サービス企画課にお問い合わせください。

2004年	6月	日	月	火	水	木	金	土	7月	日	月	火	水	木	金	土	
●	休館日				1	2	3	4	5						1	2	3
□	資料整理 休館日	6	7	8	9	10	11	12		4	5	6	7	8	9	10	
□	臨時休館日	13	14	15	16	17	18	19		11	12	13	14	15	16	17	
		20	21	22	23	24	25	26		18	19	20	21	22	23	24	
		27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	

関西館 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話 0774（98）1200（音声サービス）

サービス時間

閲覧：10：00～18：00 即日渡し複写受付：10：00～17：00
資料請求受付：10：00～17：15 後日渡し複写受付：10：00～17：45
セルフ複写受付：10：00～17：30

休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日（第3水曜日）、特別整理期間

2004年	6月	日	月	火	水	木	金	土	7月	日	月	火	水	木	金	土	
●	休館日				1	2	3	4	5						1	2	3
□	資料整理 休館日	6	7	8	9	10	11	12		4	5	6	7	8	9	10	
□	臨時休館日	13	14	15	16	17	18	19		11	12	13	14	15	16	17	
		20	21	22	23	24	25	26		18	19	20	21	22	23	24	
		27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	

平成16年度は、10月から運用を開始する東京本館の新システムの稼働準備等のため、臨時休館等を予定しています。詳しくは29頁のお知らせをご覧ください。

稀本お札之札

(435)

『人形百種』 清水晴風自筆



一七丁表

一六丁裏



四八丁表

四七丁裏

『人形百種』 清水晴風自筆

今の世の玩具博士の晴風も死ぬば子供に帰る技師

右の一首は、全国各地の玩具六〇〇余種三、五〇〇余個を集め、「玩具博士」と呼ばれた玩具研究家、清水晴風の辞世の句である。晴風は嘉永四年（一八五二）、江戸神田旅籠町で運送業を営む旧家に生まれた。幼名は半七。若い頃は力持番附に名が載るほどの力自慢で、家業を継ぐと一代目清水仁兵衛を名乗った。後に、俳諧を孤山堂山月に学び、車人、芳華堂晴風と号する一方、広重の画手本を独習、絵びらや玩具の画などに異彩を放った。大正二年、病没。巢鴨の本妙寺に墓と自筆の「玩具涅槃の圖」を刻した記念碑が現存。その遺品は親交のあった林若樹、西澤仙湖ら集古会（古書、骨董に関する在野の研究会）の会員などに分配された。

掲出本は、帝国図書館が明治三十七年五月一日に、食の研究家で「食物博士」と呼ばれた古本屋の奥村繁次郎から購入したものである。収録された一〇〇種の人形の画の中には繁治郎が晴風に寄贈した「安永年前後の土偶」の画も含まれる。和装。書名は表紙左上の題簽による。大きさ二六・七cm×一九・〇cm。本文四八丁。「慶長年頃兜人形」（前頁下段右）の画には、「昔し兜人形と称せしハ兜の頭上又ハ前立の所に人形を造り付け有るに依り兜人形と名付しも今ハ兜と人形とハ別品也」と兜人形の変遷が記されている。描かれた人形の多くは晴風所蔵のものだが、「ジャウア人形」の画など一〇数種には、人類学教室所蔵の旨の記載があり、人類学者で、玩具愛好家でもあった坪井正五郎との交流の様子を窺い知れる。集古会で親密な関係にあった山中共古も、「かなかんぶつ」（信玄や天狗などの顔を模した五月人形 前頁上段左）や「静岡在悪王神の虫除人形」を晴風に寄贈した。共古の備忘録である『續共古日録』（巻五）の中には、「清水晴風氏の集められし首人形と土偶日録」と題し、首人形一五種、土偶三二種が書き留められている。

晴風は人形の画を描くだけでは飽き足らず、雛人形のミニチュアを一〇〇種、自ら製作した。『雛百種』と呼ばれるそれら人形群や自筆の短冊を、東京の浅草橋にある吉徳資料室が収蔵している。

晴風の代表作である玩具画集『うなるの友』（一編〜六編 明治二四年〜大正二年刊）には、掲出本や『雛の圖』（晴風自筆 雛人形などの画を三六種収録 当館請求記号 寄別五五四四）に描かれたのとはほぼ同じ人形の画が見られる。また、埼玉県の越生にある笛吹人形記念美術館所蔵の『郷土玩具図屏風』（二曲一雙 晴風自筆玩具の画と晴風宛書簡を張り交せた屏風）にも、掲出本や『うなるの友』に見られる人形の画を確認できる。掲出本は、「むかしの博多人形」（前頁下段左）の画など他の人形関係資料には見られない人形の画を多く含んでおり、晴風の人形の画の全貌を研究するうえで、欠くことのできない重要な資料の一つと言える。（当館請求記号 寄別五五四九）

（川本勉）

東京本館新装開館と新しい館内利用サービスの概要

一 はじめに

国立国会図書館は、国会に対するサービスとともに、国民に対するサービスを向上させるために平成一四年度以降、国際子ども図書館の全面開館、関西館の開館、遠隔利用サービスの充実等に取り組んでまいりました。こうしたサービス向上の総仕上げとして、本年一〇月に当館は東京本館の整備を終えて新装開館し、開館日、開館時間の拡大をはじめとする利用制度改革し、新システム導入により利用サービスを効率化し、利用者の利便性の向上を図ります。

ここでは、一般利用者を対象とした東京本館の新しい館内利用サービスの概要についてお示しします。

二 新しい館内利用サービスの概要

【利用制度の改革】

利用制度の改革として、本年一〇月から、開館日、開館時間の拡大、資料請求時間等の改善を次のとおり実施いたします。(四頁表参照)

1. 開館日および開館時間の拡大

現行の週平均五日開館を、原則六日開館に拡大し、平日の開館時間を二時間延長します。この結果、年間開館時間

は現行より四三%増加します。

①開館日・休館日

- i. 開館日 原則として月曜日から土曜日までの毎日。
- ii. 休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始期間
および資料整理休館日(毎月第三水曜日)

②開館時間

- i. 月曜日から金曜日 九時三〇分～一九時
 - ii. 土曜日 九時三〇分～一七時
- ただし、古籍籍資料室、憲政資料室および音楽・映像資料室の開室時間は一七時までとします。

2. 資料請求時間および請求件数の改善

資料請求時間を平日二時間延長し、請求件数制限を緩和することで、資料の利用機会を拡大します。

①図書カウンター(含別室)、雑誌カウンター(含別室)

- i. 請求時間
 - ・月～金曜日 九時三〇分～一八時
 - ・土曜日 九時三〇分～一六時
- ii. 請求件数 一回につき三件

②専門室(専門室所管の書庫内資料の利用)

- i. 請求時間
 - ・月～金曜日 九時三〇分～一八時
 - ・土曜日 九時三〇分～一六時

ただし、古典籍資料室、憲政資料室、音楽・映像資料室等は、一六時までとします。

ii. 請求件数 一回につき五件

資料室により別途件数を定める場合があります。

3. 複写申込時間および回数・頁数制限の改善

即日複写の申込回数制限を撤廃し、申込時間を平日二時間延長します。

各専門室における複写申込時間、回数、一回の申込冊数等については別途制限を設ける場合があります。

① 即日複写

i. 申込時間 ・ 月～金曜日 一〇時～一八時

・ 土曜日 一〇時～一六時

ii. 回数 制限なし(一回につき一〇冊)

iii. 頁数 一回につき八〇頁(著作権法の範囲内)

② 後日複写

i. 申込時間 ・ 月～金曜日 一〇時～一八時三〇分

・ 土曜日 一〇時～一六時三〇分

ii. 回数・頁数 制限なし(著作権法の範囲内)

③ オンライン複写

新しいサービスメニューです。「雑誌記事索引」収録論文について、掲載誌を請求することなくNDL・OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)端末の検索結果から直接オンラインで複写の申込みができます。

i. 申込時間 ・ 月～金曜日 一〇時～一七時三〇分

・ 土曜日 一〇時～一五時三〇分

ii. 回数 制限なし(一回につき三件)

iii. 頁数 制限なし(著作権法の範囲内)

4. 関西館所蔵資料の利用

東京本館の来館利用者が、関西館所蔵資料を利用する場合に、即日伝送複写、来館遠隔複写、取寄せのサービスを実施していますが、申込時間を一部延長し、これらのサービスを継続します。

5. 一般研究室制度の廃止

開館時間の延長および利用制度の改革に伴い、一般研究室制度は、平成一六年九月三〇日をもって廃止します。

【利用サービスの効率化】

サービスのシステム化により館内利用サービスの利便性が向上します。

1. 東京本館来館利用システムの導入

東京本館においては本年一〇月から東京本館来館利用システムを導入し、入館から資料の検索、請求、複写、返却、退館までの流れをシステム化します。また、登録利用者制度を本格的に導入します。登録利用者には、登録利用者カードが発行され、入館に際しての手続きが簡素化されます。(登録利用者は、現在でも当館ホームページ上からOPAC経由で郵送複写等のサービスを受けることができます。利用者の皆様には、本年一〇月までに利用者登録を済ませ

ておかれることをお勧めします。)

2. 新システムによる利用サービスの概要

①入退館

新装開館以降入退館は東京本館来館利用システムによる館内利用カード発行、ゲート通過による入退館管理方式になります。来館時には、利用カード発行機で必要事項を入力して利用カードの発行を受けます。登録利用者は、登録利用者カードとパスワードの入力だけで利用カードを取得することができます。利用カードは資料の請求、貸出し、返却、複写申込み等で使用し、退館時に退館ゲートで回収されます。

②資料の検索、利用等

資料の検索は、利用カードを使い、館内目録ホールに設置されたOPAC端末で行います。検索画面で資料の所在情報や「利用中」などの情報が確認できます。資料の請求は、OPAC端末経由で直接申し込みます。資料の到着は、館内到着表示モニターおよびOPAC端末で確認できます。資料の受取・返却の際にも、利用カードが必要です。

③複写

複写は、従来の手書き申込みからカウンター複写用端末による申込用紙作成に変わります。複写申込みや複写製品の受取なども利用カードを使って行います。

このように新装開館以降は、入館から利用・複写を経て

退館に至るまでの各種手続きの簡素化、サービスの迅速化が実現されます。

三 新装開館に向けてのお願い

前述のように、新装開館に向けて全面的なシステム導入が予定されており、システムの安定的な稼働、導入作業のために各種のテストを行う必要があります。また、新システムへの全面的な移行のための大規模なリハールが予定されています。そのため次の日程で東京本館、関西館の臨時休館等を予定しております。

①東京本館臨時休館日

六月二二～二五日、七月二六日、八月二～三日、
九月二二日、二四日、二七～三〇日

②関西館臨時休館日

六月二二～二四日

またOPAC(インターネット)による検索、申込みサービスの停止も予定しております。詳細は二九頁、当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) をご覧ください。

東京本館新装開館のために利用者の皆様にご迷惑をおかけすることになりますが、新装開館後のサービスの改善・向上についてご理解をいただき、一時的なサービス低下、臨時休館等につきましてはご容赦くださいますようお願いいたします。

(資料提供部長

よしなが
もとのぶ
吉永 二元信)

(表) 東京本館の開館日、開館時間、サービス等の変更

		現 行	新 規	
開館日／時間	開館日	以下の休館日以外の日	原則月曜日から土曜日の毎日	
	休館日	日曜日、土曜日（第1・3土曜日を除く）、第1・3土曜日直後の月曜日、祝・休日、年末年始、1・4・7・10月の第3土曜日直前の水曜日	日曜日、祝・休日、年末年始、資料整理休館日（毎月第3水曜日）	
	開館時間	9:30～17:00	月曜～金曜 9:30～19:00 土曜 9:30～17:00	
資料請求	図書・雑誌カウンター、同別室	請求時間	9:30～16:00	月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～16:00
		請求件数	9:30～10:30は3件／回、以降2件／回	3件／回
	専門室（書庫内資料利用）	請求時間	9:30～16:00	月曜～金曜 9:30～18:00 （例外あり） 土曜 9:30～16:00
		請求件数	原則として5件／回	原則として5件／回
複写	即日複写	申込時間	10:00～16:00	月曜～金曜 10:00～18:00 土曜 10:00～16:00
		回数・頁数	5回／日、80頁／回	制限なし、80頁／回
	後日複写	申込時間	10:00～16:30	月曜～金曜 10:00～18:30 土曜 10:00～16:30
		回数・頁数	制限なし	制限なし
	オンライン複写	申込時間	現在は実施していない	月曜～金曜 10:00～17:30 土曜 10:00～15:30
		回数		制限なし（3件／回）
頁数			制限なし	
関西館所蔵資料	即日伝送複写	申込時間	月曜～金曜 10:00～12:00	月曜～金曜 10:00～12:00
		件数・頁数	2件／日、30頁／日	2件／日、30頁／日
	来館遠隔複写	申込時間	10:00～16:30	月曜～金曜 10:00～18:30 土曜 10:00～16:30
		件数・頁数	5件／日、制限なし	5件／日、制限なし
	取寄せ	申込時間	9:30～16:00	月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～16:00
		件数	5件／日	5件／日

*複写の頁数制限なしは、著作権法の範囲内に限定されます。

情報環境の変容と国立国会図書館の役割

第四四回 科学技術関係資料整備審議会を開催

平成一六年二月二六日、国立国会図書館（東京本館）において第四四回科学技術資料整備審議会が、審議会委員一名（うち一名代理）の出席のもとに開催された。当館からは、黒澤館長、大滝副館長以下一三名が出席した。ま

ず進行役の渡邊幹事（主題情報部長）から、審議会委員の異動について報告した。秋本俊一委員長、今井功委員、

江澤洋委員、藤原鎮男委員の四名の委員が退任し、

倉田敬子、塚原修一、土屋俊、野依良治の各氏が就任した。

また日本原子力研究所理事長の交替にともない後任の岡崎俊雄理事長が委員に就任した（下表参照）。

黒澤館長は開会のあいさつの中で、次のように述べた。

四〇年に及ぶ当審議会の活動により、当館の科学技術関係資料整備についてはこれまで一貫して政策的優先順位が与えられ、その充実に努めてきたが、近年の科学技術をめぐる情報環境や社会状況の急激な変化をふまえた対応を考える必要がある。今回の審議会では「情報環境の変容と国立国会図書館の役割」について懇談していただきたい。今後の科学技術情報の整備を見据え、大所高所からの審議を期待する。

続いて委員長長の互選が行われ、日本図書館協会会長（前

京都大学総長）の長尾委員が委員長に選出された。また、委員長から、委員長代理として名和委員が指名された。

関西館開館後一年の状況
館からの報告として、まず、平成一五年度における科学

科学技術関係資料整備審議会出席委員

朝倉 均	国際医学情報センター理事長
岡崎 俊雄	日本原子力研究所理事長*
沖村 憲樹	科学技術振興機構理事長
倉田 敬子	慶應義塾大学文学部教授*
末松 安晴	国立情報学研究所長
塚原 修一	国立教育政策研究所総括研究官*
土屋 俊	千葉大学文学部教授*
長尾 真	日本図書館協会会長
名和小太郎	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター客員教授
野依 良治	理化学研究所理事長*

（以上敬称略、50音順、*は新任、肩書きは当時）

なお上記以外に丸山剛司委員（文部科学省大臣官房審議官）の代理として三浦春政研究振興局情報課長が出席した。

技術関係情報整備に係る現況と取組みについて、渡邊幹事から報告を行った。平成一六年度科学技術関係予算の規模と同一五年度の執行状況、外国雑誌、電子情報の収集状況、さらに関西館開館後の科学技術資料の利用状況などを説明するとともに、前回の審議会をふまえて策定した「科学技術関係情報整備計画―組織機構再編後の当面の課題遂行と館内体制について―」（以下「整備計画」）を中心とした今後の取組みの概要について報告した。

収集については、外国雑誌の価格高騰による資料の購入打ち切り問題、いわゆるシリアルズ・クライシスが続く中で、その打開策の一つとして約一万タイトル（うち科学技術関係は四千タイトル余）の電子ジャーナルの館内での提供を開始したことなどを報告した。また遠隔複写では、インターネットを介して申込みが可能な新サービスにより、関西館開館後一年で、従来八万件台で推移していた複写処理件数（論文数）が一六万件に倍増したこと、特に大学等の図書館経由の申込みが微増・漸増であるのに比して、個人利用者からの直接申込みの伸びが顕著であること、逐次刊行物を含む科学技術分野資料の利用が半数弱を占めることなどを説明した（詳細は、九〇―一五頁参照）。

「整備計画」については、とくに国会等、研究者コミュニティ、一般利用者（国民）という三つの利用者層ごとのニーズに対応した情報整備とサービスの充実を図るとともに、国の科学技術政策の動向と電子情報に留意した資料・

情報の重点的整備を目指したものであることを説明した。また、この計画が、関西館設立を機に行った機構再編後の全館的な資料整備・サービスの実施体制強化のために策定されたこと、今後想定される諮問・答申を受けて策定される次期「科学技術関係情報整備基本計画」までの計画であることを付言した。

国立国会図書館電子図書館中期計画二〇〇四について

続いて、二月に策定された「国立国会図書館電子図書館中期計画二〇〇四」について、植月電子情報企画室長から概要報告を行った。オンライン情報資源の収集をはじめとするデジタル・アーカイブの構築やワンストップで情報入手を可能とするポータル機能の構築を目指すこと、そのための制度的枠組みの整備や関係機関との協力の推進などが強調された。これに対して、各委員から当館の電子図書館計画への期待が述べられ、また、活発な質問・意見が出された。このような計画の実現にあたっては、課題の大きさ・対象の広がりから、国立国会図書館が行うにしても単独ではなく、とくに他機関との協力が不可欠であることなどが指摘された。

情報環境の変容と学術情報の流通

次いで懇談に移り、世界的な情報環境の変容の中で、日本全体を視野に入れた科学技術、学術情報流通に先進的に

取り組んでおられる二人の委員から発議がなされた。沖村委員が「独立行政法人科学技術振興機構の情報流通促進事業について」、また電子ジャーナルの大学図書館への導入や日本発の学術情報流通の基盤整備事業を先導しておられる土屋委員が「学術情報流通の現状と課題」と題して、各々発表された。この発表およびこれを受けた懇談においては、日本の科学技術論文の八〇％が海外流出している現状への危機感が表明され、わが国における自前の情報流通基盤整備が喫緊の課題であることが指摘された。また商業出版社による雑誌の寡占化をめぐっては、新たな国際的動向として、商業出版に対抗するために学会等が学術情報への無料（または低料金）のアクセスを保障する、オープンアクセス運動が沸き起こっていることなどが紹介された。さらに、今後構築されるメタデータに基づく電子図書館と既存のOPACを統合し、利用者に対して一元的な情報・文献提供を図るといふ視点からの問題提起もなされた。

一方、過去のパッケージ系電子出版物が専用機器の販売



審議会風景（右端が長尾委員長）

中止、基本ソフトウェアの変遷により利用できなくなる事態がすでに現実のものになっている状況に対し、国立国会図書館としても早急な対応が必要であるとの指摘がなされた。

市民への科学技術情報発信の重要性と国立国会図書館の今後の役割への期待も表明された。

「報告書」策定に向け作業部会を設置

委員の関心と論議は、これからの科学技術情報の流通にとって重要な柱組みとなる「電子図書館」に関わる諸問題に及んだ。特にデジタル・アーカイブやポータルサイトのあり方について活発な質問・意見が出された。

また、懇談をとおして、情報環境の激しい変化の中で、国立国会図書館が果たすべき役割を考える上で審議会が考慮すべき論点が複雑かつ多岐にわたることが示された。

さいごに、今回提起された諸課題について調査検討を行うための作業部会を設置し、その検討内容を報告書としてまとめ、次回審議会（平成一六年度を想定）において審議すること、さらにその審議結果が国の諸計画等に生かされるよう進めたいとの長尾委員長のとりまとめが了承され審議会は終了した。

（主題情報部科学技術・経済課）

ホウホケキョ、びびびび。青い空の下、

OPACで公開しています。

うぐいすと何かはわからない鳥の声。今日もさわやかな緑の風に吹かれて出勤です。近所には雉も出てくるという関西館の二階に、収集整理課があります。係は三つ、関西館の所蔵資料の収集にあたる収集第一係と収集第二係、その二つの係で収集した資料の整理を担当する整理係です。

係七名では処理しきれないほどの量を扱っているのです、洋雑誌の整理以外の作業は、民間会社に委託しています。委託業者の作業員さんは、総勢約二〇名。関西館地下二階の収集整理課分室で、作業に従事しています。

作業の指示は係全員が行います。

「係員全員が社長みたいです。」

と言った人がいます。社長は常に決断を迫られます。社長は孤独です。他社の社長は我が社の業務内容には詳しくないので、細かいことは一人で考えて決めます。考えてばかりもいられません。作業員さんが作成したデータが正しいか資料と突き合わせ抽出点検もします。



④国内の博士論文

⑤文部科学省科学研究費補助金成果報告書

⑥洋雑誌です。雑誌・新聞の受入れを加えて、

係としては七種類の仕事があり、七人で一つずつ担当しています。

和図書は、東京本館で作成する書誌データに関西館の所蔵情報を記録します。ほかの資料群は、関西館だけで所蔵する資料が多いため、整理係で書誌データを作成して、NDL

新しい資料が次々と流れてくる整理作業で達成感を味わうことは難しいのですが、一年間の外注作業が無事に終了したときには、「やったね!」って感じます。京都勤務三年目に突入のこの春、細腕社長ははりきってま

(関西館資料部収集整理課整理係 ケーン)

常設展示のお知らせ

第一三一回 記録の中の「幻獣」たち

平成一六年 五月 一日(土) から

六月三〇日(水) まで

於 本館目録ホール入口(東京本館)



詳細は本誌五一七号または当館ホームページをご覧ください。ホームページでは、「ギャラリ」のなかにある「常設展示」のコーナーに、「展示資料一覧と簡単な解説文を掲載しています。(http://www.ndl.go.jp/jp/gallery/permanent/index.html)

巻末にこの展示会に関連したコラム「本を魅せる 常設展示案内」があります。

インターネット時代の科学技術情報サービス―関西館開館後の遠隔複写をめくって―

主題情報部科学技術・経済課
関西館資料部文献提供課

関西館開館を契機とするNDL・OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）の公開、インターネット経由の複写申込受付等の新サービスにより、図書館を経由しない個人からの複写申込みが急増した。資料の種類では和逐次刊行物の申込みの伸びが著しい。これは、雑誌記事索引の公開が大きく影響している。科学技術分野の資料に絞って見ても、和逐次刊行物の利用の伸びが顕著である。また洋逐次刊行物と欧文会議録の利用も着実に伸びている。利用者別では、大学図書館で和逐次刊行物の利用が大きいのに対し、専門図書館と個人では洋逐次刊行物の割合が比較的高く、欧文会議録などの科学技術資料の利用も多い。当館所蔵の有用な図書館資源を、「科学技術創造立国」に役立て、また国民に対し、広くかつ直接、提供するサービスをさらに発展させていく必要がある。

1 はじめに

平成一四年四月、国立国会図書館に関西館が設置され、遠隔利用サービス（図書館間貸出し、遠隔複写）の窓口の役割を担うことになった。関西館は同年一〇月に開館したが、開館後の利用状況については本誌五一二号（二〇〇三

年一月）の「開館一年を迎えた関西館 所蔵資料と利用の概況」の中で報告したところである。今回第四回科学技術関係資料整備審議会（五〇七頁参照）での当館側報告準備の一環で、科学技術分野の資料に焦点を当てて遠隔複写サービスの申込状況の分析（注）を行ったので、その概要を紹介する。

2 平成一〇年度から一五年度までの申込論文数の推移

表1は過去六年間の遠隔複写の申込状況を利用者別に示したものである。このうち国内申込分をグラフ化したものが図1である。平成一四年度に関しては、関西館開館直後から一年間の利用状況を探るため、あえて平成一四一〇月からの一五九一〇月までの期間の申込数に置き換えてある。関西館開館前は国内の申込みが年間約八万五千論文であったのに対し、開館後の一年間では約一六万論文と、ほぼ倍増した。平成一五年度の申込数ではさらに約

表1 平成10年度～15年度の利用者別申込数の推移

(単位：論文数)

平成	国内計	利用者別（国内）								国外
		大学図書館		公共図書館		専門図書館		個人		
10年度	86,089	37,596	44%	15,676	18%	16,750	19%	16,067	19%	2,118
11年度	81,895	35,043	43%	16,830	21%	16,358	20%	13,664	17%	2,079
12年度	85,717	36,371	42%	17,230	20%	16,073	19%	16,043	19%	1,930
13年度	84,902	35,543	42%	17,993	21%	14,648	17%	16,718	20%	4,229
14年10月～15年9月	159,809	39,699	25%	17,398	11%	19,370	12%	83,342	52%	1,710
15年度	209,316	42,247	20%	18,330	9%	21,719	10%	127,020	61%	1,895

図1 平成10年度～15年度の利用者別（国内）申込数の推移

(論文数)

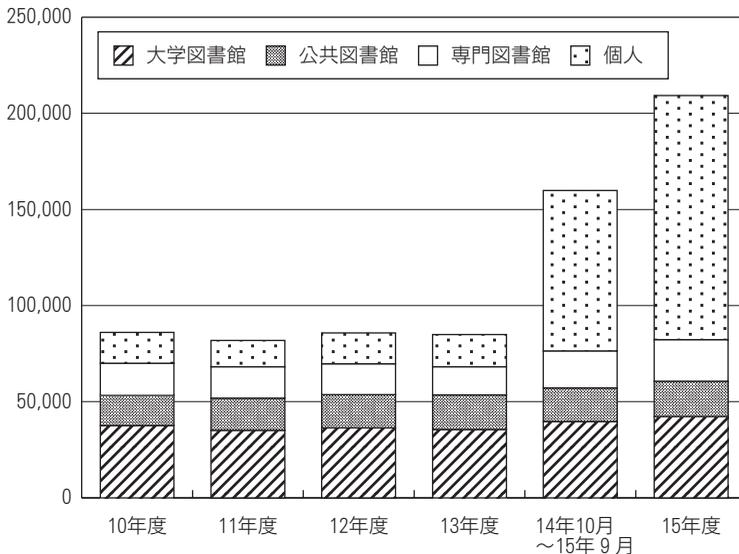
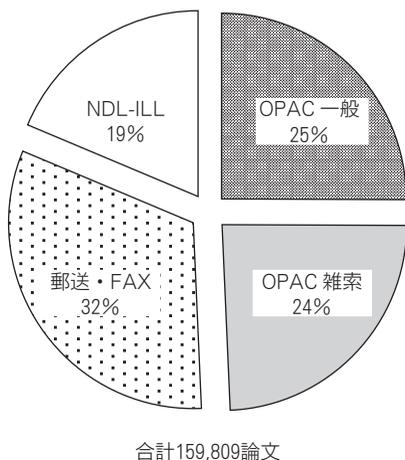
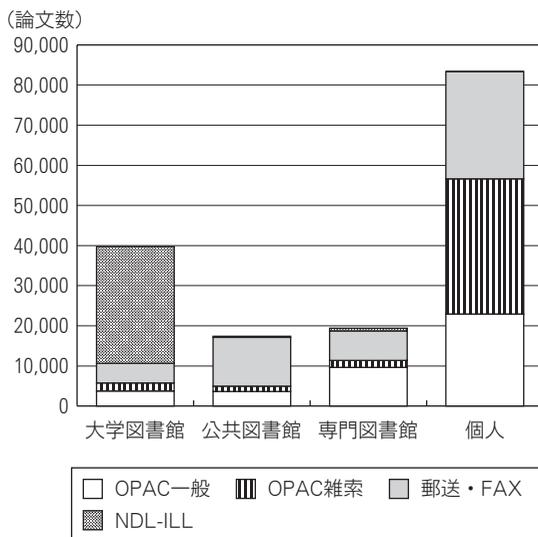


図 2 - 1 申込方法別の遠隔複写利用
平成14年10月～15年 9月



二一万論文と飛躍している。特に図書館を経由しない個人からの申込みが急増しており、この個人の増加分がそのまま全体の申込論文数の伸びにつながっていると見ることが出来る。その要因は、NDL・OPACの公開と、これまで複写申込みの主流をなしていた図書館経由によるものから、新しいサービスシステムにより、個人の登録利用者が自宅のパソコンから直接申

図 2 - 2 利用者別に見た遠隔複写利用
平成14年10月～15年 9月



し込めるようになったこと、すなわちNDL・OPACにより蔵書の検索から直接複写の申込みができるようになったことが大きな契機になっていると推測できる。当館の複写申込みを倍増させた個人の情報ニーズを的確に把握し、当館の蔵書構築に反映させる意味でも、個人に的を絞った利用動態等の分析が今後の課題である。

また、関西館開館後一年間の遠隔複写利用（国内）を申
 込方法別・利用者別に示したのが、それぞれ図2・1、
 図2・2である。図中、OPAC一般とあるのはNDL・
 OPACの「一般資料の検索」、OPAC雑索は「雑誌記
 事索引の検索」の検索結果から、各々直接複写申込みをし
 たことを意味する。NDL・ILLは、国立情報学研究所
 を通じて主として大学図書館からの申込みを受け付ける
 NDL・ILLシステムによる申込みである。

NDL・OPAC経由の申込みは個人では約六パーセ
 ントを占める一方、NDL・ILLシステムが主流の大学
 図書館では約一五パーセントにとどまっている。ただし最新
 の平成一五年度の数字によれば、大学図書館も含めて全体
 としてNDL・OPAC経由の申込みの割合が増えている。

3 関西館開館後の科学技術分野の複写申込状況

表2（一三～一二頁）は、一五か月間にわたる資料群別
 の複写申込件数の推移を示している。なお、科学技術資料
 とは表2中の欧文会議録以下五種類の資料を指す。また、
 科学技術分野資料とはこれに和逐次刊行物、洋逐次刊行物、
 図書のうち科学技術系に分類された資料を加えた包括的な
 ものである。上の表は電子図書館基盤システム（注参照）
 経由の申込みで、同時期のNDL・ILL経由申込みにつ
 いても参考のため下に併記した。上の表ではどの資料群に

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2,379	2,198	2,248	2,516	2,121	2,860	2,787	2,513	29,168
1,818	1,760	1,967	1,734	1,821	2,062	1,855	2,197	26,364
132	123	122	158	161	190	204	168	2,092
106	121	143	115	163	127	111	145	1,798
16	16	10	30	9	8	10	78	431
2	5	0	4	9	11	6	3	100
0	6	5	2	2	1	3	1	27
1	9	3	3	11	0	9	2	99
125	157	161	154	194	147	139	229	2,455
4,454	4,238	4,498	4,562	4,297	5,259	4,985	5,107	60,079
9,698	9,086	9,965	11,400	10,720	12,432	12,466	11,678	135,359

770	676	748	699	640	854	744	824	9,548
104	112	97	88	126	92	107	120	1,442
36	46	55	28	29	40	42	53	527
35	21	38	19	38	47	28	56	464
945	855	938	834	833	1,033	921	1,053	11,981
2,463	2,394	2,825	2,324	2,380	3,008	2,574	2,850	35,156

※いずれも申込単位なので論文単位の件数とは数値が異なる。NDL・ILL
 経由には請求記号未入力などの理由で分野を特定して抽出できない
 申込みがあるので、実際の科学技術分野の件数はこれより20%程度多い。

についても、インターネットからの個人申込みが始まった平成一五年一月に大幅な伸びを示している。資料群別では、和逐次刊行物の伸びが約三倍と著しい。洋逐次刊行物も順調な伸びを示しているが、和洋の比率に逆転が見られた。和の急速な伸びは雑誌記事索引公開の効果と考えられる。図書と科学技術資料は平成一五年一月以降微増ないし横ばいである。ただし科学技術資料については、テクニカルリポートなどNDL・OPACから検索できないものが多数あった。この五月、約一七二万件のデータが追加されることにより、今後は申込みの増加が期待される。科学技術資料の内訳を見ると、欧文会議録の申込みが最も多い。一方、参考までにつけたNDL・ILL経由の数値からも和逐次刊行物の大きな伸びを確認することができる。科学技術資料については内訳の集計ができなかったが、全体として安定した利用のあることがわかる。

図3は、同時期のデータを利用者別に表したものである。グラフからは個人の直接申込みが約三倍と大幅な増加を示していることがわかる。図書館の中では専門図書館の増加率が約二倍と高い。大学図書館については依然としてNDL・ILL経由の申込件数が多いので、NDL・ILL経由を大学分として加算した値をグラフ中に入れた。これを見ると大学図書館についても全体として専門図書館と同程度の複写申込みがあり、期間を通じて確実に増加していることが確認できる。

表2 科学技術分野資料の遠隔複写申込件数の推移（資料群別）

	平成14年 10月	11月	12月	平成15年 1月	2月	3月	4月
和逐次刊行物	728	941	878	1,754	1,722	1,762	1,761
洋逐次刊行物	1,250	1,311	1,199	1,831	2,009	1,914	1,636
図 書	83	71	66	153	134	176	151
科学 技術 資料							
欧文会議録	74	93	72	148	178	115	87
リポート	47	19	47	37	58	33	13
規 格	16	6	12	8	4	2	12
海外学位論文	0	0	0	1	2	0	4
学協会ペーパー	16	28	7	5	4	0	1
小 計	153	146	138	199	246	150	117
科学技術分野資料合計	2,214	2,469	2,281	3,937	4,111	4,002	3,665
基盤システム経由申込全体	4,361	5,330	4,640	9,384	8,544	8,287	7,368
参考) NDL-ILL 経由							
内							
和逐次刊行物	487	521	622	508	430	530	495
洋逐次刊行物	75	90	115	76	72	69	99
図 書	38	24	26	34	20	23	33
科学技術資料	43	18	24	23	24	23	27
科学技術分野資料合計	643	653	787	641	546	645	654
NDL-ILL 経由申込全体	2,224	2,199	2,374	2,007	1,863	1,946	1,725

表3は表2の合計欄の数値を利用者別、資料群別に整理したものである。図4ではNDL・ILL経由の申込みを

大学図書館分として加算してある。専門図書館を除くと、どの利用者種別でも和逐次刊行物の複写が最も多い。特に

図3 科学技術分野資料の遠隔複写申込件数の推移（利用者別）

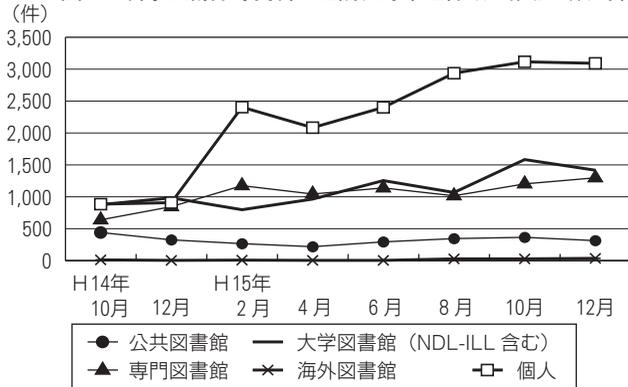
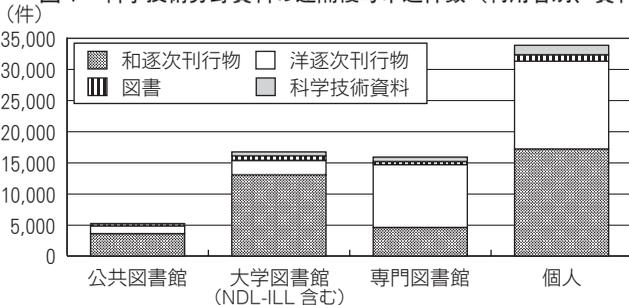


表3 科学技術分野資料の遠隔複写申込件数（利用者別、資料群別）

(単位: 件)

	図書館					個人	
	公共	大学		専門	海外		
		基盤システム	NDL-ILL				
和逐次刊行物	3,602	3,522	9,548	4,604	192	17,248	
洋逐次刊行物	1,264	868	1,442	10,116	25	14,091	
図書	355	209	527	480	23	1,025	
科学技術資料	欧文会議録	8	133		559	17	1,081
	レポート	1	37		114	0	279
	規格	2	2		25	0	71
	海外学位論文	1	4		7	0	15
	学協会ペーパー	0	10		10	0	79
	小計	12	186	464	715	17	1,525
科学技術分野資料合計	5,233	4,785	11,981	15,915	257	33,889	
遠隔複写全体	15,800	11,919	35,156	19,952	793	86,895	

図4 科学技術分野資料の遠隔複写申込件数（利用者別、資料群別）



大学図書館では洋より和の逐次刊行物を当館に期待していることがわかる。一方、専門図書館では洋逐次刊行物の申込みが最も多く、対全複写申込件数で五割を占める。欧文学議録など科学技術資料については個人申込みが多いこともわかる。

なお、逐次刊行物には雑誌と新聞が含まれるが、和も洋も申込みの大部分は雑誌であり、今回目立って増加したのも雑誌の方である。

4 おわりに

当館の科学技術資料整備は、わが国の戦後復興や高度成長を情報流通の面から下支えしてきた。今日、国の科学技術政策は、社会環境の変化や情報通信技術の急速な進展により、大きな転換期にある。第二期科学技術基本計画においては、経済再生のキーワードとして新たな「科学技術創造立国」を提唱する一方、「社会のための、社会の中の科学技術」を強調している。食の安全問題やSARS、鳥インフルエンザといった日常生活を脅かす疾病の地球規模での蔓延等、科学技術をめぐる事案は枚挙に暇がない。こうした国民が関心を寄せ、また国会審議のテーマでもある科学技術に関わる情報ニーズに的確かつ迅速に応えることは当館の重要な使命である。

今回の調査を通して、当館が所蔵する有用な図書館資源・

科学技術情報を、国全体の情報基盤と位置付け、国民各層の中に広くかつ直接、提供するサービスをさらに発展させていくことの重要性を改めて確認することができた。

(注) 今回の調査の分析にあたっては、毎月の業務統計(複写依頼のあった論文・記事単位。一冊の雑誌でも、この中の二つの論文の複写依頼があれば「2」と算定する。)から必要なデータを採取したが、科学技術資料を中心とした申込状況については、電子図書館基盤システム(国立国会図書館のサービス・業務を支える基幹システム)から科学技術分野のデータを自動抽出した。これらにはいずれも謝絶分が含まれている。集計数値には、請求記号から分野を特定できない国内博士論文、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書などは含まれていないが、それ以外の欧文学議録等の科学技術資料については、例外的にタイトル等を参照し、手作業で集計した。当館ではこのほかに、国立情報学研究所との連携協力によるNDL・ILLシステム(各大学図書館経由の複写依頼のシステム)も並行して利用している。NDL・ILL経由申込みの分析のために国立情報学研究所のご協力をいただいた。同研究所にこの紙面を借りて、深く感謝申し上げます。

(主題情報部科学技術・経済課 佐藤 典子・久古 聡美、
関西館資料部文献提供課 小林 一春・福田 亮)

レファレンス協同データベース・システムの現状と展望

一 はじめに

国立国会図書館は、平成一六年四月一日からレファレンス協同データベース・システム（以下「当システム」という。）の運用を一四八館の参加を得て開始した。レファレンス協同データベース実験事業は、全国の図書館で日々行われているレファレンス・サービスの事例等の提供を得て、データベースとして構築することにより、図書館の業務および一般の人々の情報検索に役立てることを目的とした事業である。当館では、平成一四年度と一五年度の二か年をかけ、準備を進めてきた。この事業は、館種、規模および地域を問わず、全国の図書館が協同して行うプロジェクトとして、前例のないものである。

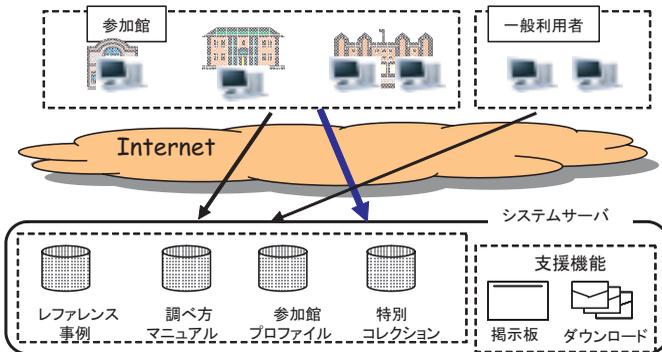
本稿では、システムの概要、参加館の加入状況および事例データの登録状況について報告し、今後の課題等についても言及する。

二 システムの概要

(一) システムの基本構成

当システムは、レファレンス事例、調べ方マニュアル（利用マニュアルや主題別の調べ方等）、特別コレクション

（特別文庫、個人文庫等の目録）、参加館プロフィール（参加館の特色等）の四つのデータベースにより構成される（図1）。当システムは、これらのデータベースを核として、データベース登録、管理、検索、参加館支援等の機能を持つ。参加館は、ウェブブラウザを使ってアクセスし、データの登録、修正・削除、検索等を行うことができる。また、当システ



(図1) レファレンス協同データベース・システム全体図

ム的一般利用者への公開後は、一般利用者もウェブブラウザを使って一般公開用のデータを検索することが可能となる。



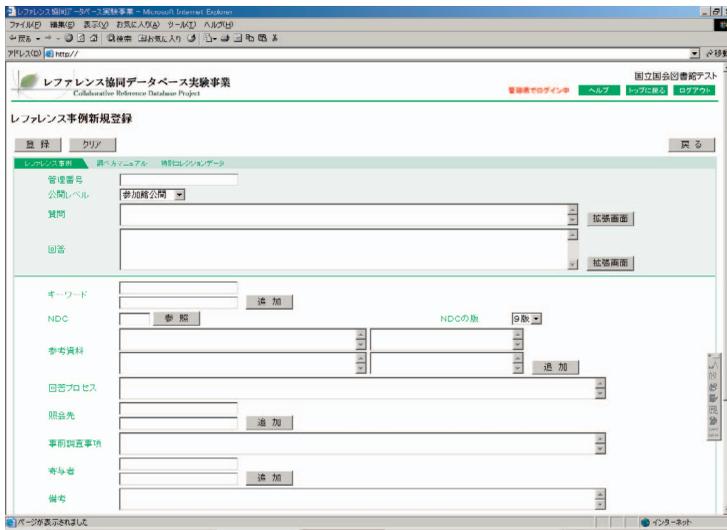
(図 2)



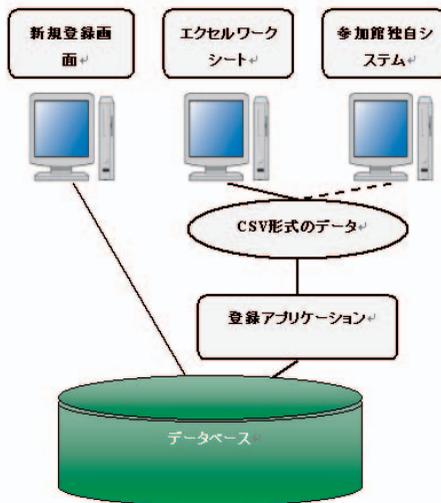
(図 3)

(二) システム機能の紹介
 トップページ(図2)から、前述の四つのデータベースを横断的に検索することが可能である。また、事例は自館のみ参照、参加館公開、一般公開の三つの公開レベルにより区分して登録されているが、この公開レベル別にも対象の範囲を定めて検索することが可能である。例えば自館作成のデータあるいは調べ方マニュアルに限定して検索することができる。

より詳細に検索がしたい場合は、詳細検索を利用する(図3)。各データベース単位で検



(図4)



(図5)

索語を入力する項目を五個選択し、検索することができる。また、館種別、事例作成日、調査種別、内容種別、質問者区分、日本十進分類等で検索することも可能である。

参加館はレファレンス事例や調べ方マニュアル等のデータを直接システム画面から登録することができる(図4)。

当システムでは、管理番号、公開レベル、質問の各事項の登録を必須とした。事例公開の際には、回答の登録も必須となる。その他の項目の入力は参加館の任意となっているが、プラグダウンメニューや参照機能により、参加館によるデータ入力をしやすくする工夫をしている。

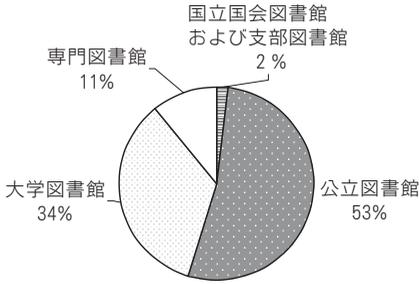
参加館のシステム環境に合わ

せて、当システムへのデータ登録を可能とするため、当館では、参加館がデータを作成するためのエクセルワークシートと、CSV形式のデータを当システムに登録するための登録アプリケーションをそれぞれ参加館に配布している(図5)。これにより、当システムの標準フォーマットに基づきデータを作成し、大量のデータを参加館から一度に登録することが可能となっている。

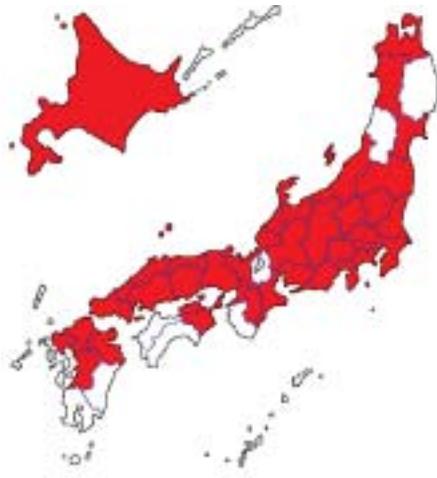
三 実験事業参加館の状況

平成一五年

九月から一月まで、第一回目の参加館の募集を行った。その結果、参加館は国立国会図書館、支部図書館二館、公立図書館七八館、大学図書館五一館、専門図書館一六館、総



(図6) 参加館148館の館種別内訳



(図7) 都道府県立図書館の参加

計一四八館となっている(図6)。事業に参加するための条件として、館種を問わなかったこと、通常のインターネット端末が利用できることおよび登録件数を一件以上としたことから多くの図書館の参加を得た。

都道府県立図書館の参加は、四二館で都道府県単位では三七都道府県(全都道府県の約八割)が参加し(図7)、政令指定都市立では七館(全体の五割強)の参加となっている。大学図書館においては、レファレンス処理件数の多い有力大学が参加するとともに、医学や芸術系等専門性の

高い単科大学の参加も見られる。専門図書館においては、経済や産業系等の特色のある図書館が参加している。

四 データの登録状況

平成一六年四月五日現在、四、一六四件のデータが登録されている。内訳はレファレンス事例三、九九四件、調べ方マニュアル一六三件、特別コレクション七件となっている。

データの登録件数の館種別割合は、公立図書館六三%、専門図書館二七%、大学図書館四%、国立国会図書館六%となっている。全般的には公立図書館のデータ登録比率が高く、内容は郷土資料に関する事例が数多く登録されている。また大学図書館、専門図書館からは特定テーマによる事例が登録されており、登録件数自体は多くはないが、様々な場合に役立つ興味深い事例が見られる。

公開レベル別の割合は、自館参照レベル二四%、参加館公開レベル二六%、一般公開レベル五〇%となっている。当システムに登録された事例を見ると、ビジネスから芸術や地域文化等に至るまで、実に様々な内容の質問が図書館に寄せられていることに、改めて驚かされる。また、それに対して、図書館員が所蔵資料やレファレンスツールにより的確に回答を行っていることも垣間見ることができている。

「参加館の登録事例の質問事項から」

「アカデミー賞のオスカー像が手にしているものは何か」

「『なせばなる』で始まる名文句の作者を知りたい」

「桜餅はいつ売り出されたか知りたい」

「だるまに目を入れる時、どちらを先にいれるのか知りたい」

「寺院の名に山号が冠せられるのは何故か知りたい」

「『油断』の語源となった涅槃経の部分を読みたい」

「月極駐車場の『月極』はなぜ『月決め』ではないのか」

「さめきうどんの経済効果について分かる資料はないか」

「タイ料理トム・ヤム・クンの『トム』『ヤム』『クム』それぞれという言葉の意味を知りたい」

現時点において半数のデータが一般公開レベルとされていることは、当初の予想を超えるものである。自館参照レベルとなったデータも、今後事例内容の編集が行われ、順次データが公開されていくことが期待される。

五 実験事業の課題

立ち上げから三年目を迎えるこの事業には、多くの課題がある。

性 (一) 事例作成マニュアルやガイドライン等の整備の必要

レファレンス事例をデータベース化することは従来ほとんど行われておらず、どのように事例データを選択し、作成するかについて、図書館員の間には今のところ明確な共通認識はない。プライバシー保護や事例データの品質維持のためにも、マニュアルやガイドラインを整備していく必要がある。

(二) 事例データの拡充

データベースが、参加館、また一般利用者に役立つためには、ある程度の規模が確保されなくてはならない。そのためには、より多くの機関の協力を得、多数の質の高い事例データを拡充する必要がある。

(三) 機能拡張の必要性

現在のシステムに加え、検索機能高度化や、参加館同士のコミュニケーションを支援する機能など、事業の進展に伴い新しい機能を開発する必要がある。

六 平成一六年度の予定

平成一六年度は次の事項を事業目標とする予定である。

(一) レファレンス協同データベース・システムの機能追加

(二) 参加館の意見等の汲み上げ

(三) 参加館の拡大(第二期参加館募集)

(四) 参加館フォーラムの開催

(五) 一般公開

現在、インターネット上には質問・回答型の民間のサービスもあり、利用も活発で、多数の質問と回答が登録されている。しかし、責任ある組織の実態をもった図書館において、資料や情報の専門家である図書館員が資料に基づいて行う質問回答型のサービスの記録は、インターネット上の他の情報と比較して、信頼性が高い情報源と言える。これらの事例を統合した当データベースは、利用者に適切な情報の道案内として活用される大きな可能性を持っている。この事業がレファレンス・サービスを通じた図書館協力の発展を促し、図書館のレファレンス・サービスの質を向上させることを期待し、本年度も実験事業を進めていきたいと考えている。今後も、多くの図書館の参加とご協力をお願いしたい。(関西館事業部電子図書館課)

この事業に関する問い合わせ先

国立国会図書館関西館事業部電子図書館課研究企画係

電話 〇七七四一九八一四七三(直通)

E-mail info-crd@ndl.go.jp

この事業に関する紹介ページ

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/collabo-ref.html>

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

世界大風呂敷展 布で包むものとの心

特別展 国立民族学博物館・千里文化財団編 千里文化財団刊 (〒565-0826 吹田市千里男博公園一・二) 二〇〇二・九
一四三頁 A4 (KB16:H8)

大学時代金沢に旅行した際、加賀友禅の店で綺麗な風呂敷を買おうとしたら、近付いてきた店員に、「どなたかへのお土産物ですか？お祖母さま？」と声を掛けられたことがある。結局自分のためだと言いつい出しかねて、私は買わずに帰ったのだが、若いくせに風呂敷だなんておかし、風呂敷なんて古臭いという固定観念が、当時店員にも私にもあった気がする。この本は、国立民族学博物館が二〇〇二年一月から開催した特別展「世界大風呂敷

展―布で包むものとの心」の図録であるが、読み進めるうちに、見事に固定観念が打ち破られた。

まず、風呂敷が日本固有のものではないこと。「世界大風呂敷展」の名が示すように、この本で取り上げられている風呂敷は、中央アメリカ、中東、東南アジアなど多岐にわたる(この展覧会は「風呂敷のような機能をもつ布」を対象としているため、厳密に言うといわゆる「風呂敷」よりも広い)。日本の風呂敷の語源は「風呂屋での敷きもの」で、衣服の包みに使われたとの記述があるが、トルコの公衆浴場ハンマームでも、全く同じ使われかたをしているボフチャという「風呂敷」もあるという。遠い距離を隔てた共通性があることも興味深い。

そして、「古い」ものではないが決して「古臭い」ものではないこと。世界最古の風呂敷として挙げられる正倉院御物から始まり、小堀遠州所蔵の茶道具風呂敷の美しさは注目値する。どことなくオリエンタルな香りがする色柄だと思ったら、当時の渡来品の裂(きれ)を使っているのだそう。もちろん世界各地の風呂敷もそれに負けていない。染め・織り・刺繍……さまざまな技巧を凝らして作り上げられた風呂敷は、広げたときのみな

らず、包んだときの美しさをも十分に計算されて作られている。この図録が、風呂敷の広げた写真に加えて、ものを包んだかたちの写真や、実際に世界各地で同型の風呂敷を使っている写真を多数収録しているのは、芸術品の完成度を持ちつつも、あくまで実用品である風呂敷の特性を把握するの役に立つ。

最後に、この展覧会の特筆すべき点は、現在忘れられかけている風呂敷文化を見直すために、「未来の風呂敷」と題して新しい風呂敷の提案をしていることだ。デザイナーのヨイガン・レール氏が創作した風呂敷は非常にシックで、洋服姿で持っても全く違和感がないように思える。その一方で、彼の創作した風呂敷と図録の前半で取り上げられた日本・世界の風呂敷とを見比べても、全く違和感がないのだ。このことはまさに、古くて新しい風呂敷の可能性を示している。

考えてみれば、風呂敷は畳んでの持ち運びも簡単で、中身に合わせてサイズを変えられ、何度でも使える、まさに究極のエコバック。おまけに色や柄でさりげなくセンスを主張することも出来る、いいことづくめのアイテムなのだ。

私も風呂敷を持ちたいと思った。

(落美都里)

積極的なビジネス支援サービス

～ニューヨーク公共図書館「SIBL」におけるサービス～

上田志保

一 はじめに

ニューヨーク公共図書館(以下NYPL)の研究図書館の一つである科学・産業・ビジネス図書館(Science, Industry and Business Library 以下SIBL)は、一九九六年の開館以来、先進的なビジネス支援サービスで名高く、すでに菅谷明子氏の『未来をつくる図書館―ニューヨークからの報告―』(二〇〇三年 岩波書店)などにより、国内でも広く紹介されている。

筆者は二〇〇三年一月、SIBLに約一か月滞在し、同館におけるサービスをその内側からつぶさに見る機会を得た。ここでは、SIBLが提供するサービスのうち、特に国立国会図書館とは事情が異なる項目に重点をおいて、紹介したい。

二 サービスの土台

SIBLは一〇〇万冊を超える蔵書を有し、毎週火・水・木曜日の一〇～二〇時、金・土曜日の一〇～一八時に開館している。夜間までの運営を支えるのは、司書はもちろん

のこと、出納などの作業を行うテクニカルアシスタント、カウンター業務の補助を行う非常勤司書、館内ツアーなどを行うボランティアといった様々な役割の方である。司書は、九～一七時、一〇～一八時、一二～二〇時の三交代制をとっており、週三五時間の勤務時間のうち一五時間はカウンターなどに、二〇時間はデスクワークや研修などにあてている。また、司書は中小企業・貿易・金融など分野ごとのチームに所属しており、チームに関わりの深い分野のコンテンツ編集や講習の講師などに携わっている。司書の間で知識の共有を図るため、新着資料や製本中資料の情報などを電子メールで連絡するほか、職員用の館内ホームページに有用なリンク集やFAQなどを掲載して業務を効率化している。

三 電子情報の提供

① データベース

SIBLでは、館内の「電子情報センター」という閲覧室で、二四台の専用端末により、一五〇以上のデータベース

スを無料で提供している。これらのデータベースは、例外もあるが時間制限・予約なしに利用ができ、有料ではあるが基本的に枚数の制限なくプリントアウトすることができ。ただし、検索結果のZIP等記録媒体への保存や電子メールによる自分のアドレスへの送付（ともに無料）の方がよく行われているということだった。

また登録をすれば、一部のデータベースには図書館外からでもアクセスできる。提供されているデータベースの詳細はSIBLのホームページ上で紹介されている。^{注1}中でもコレクション責任者が最も重要なデータベースとして挙げたのは、Nexis, Factiva, Bloomberg, MergentOnline, Standard and Poor's Net Advantage, Dune & Bradstreet社のデータベース^{注2}である。データベース導入の際には、必ずベンダー（提供企業）から収録件数、対象年次、提供実績、コスト等様々な数値を収集して検討するということがあった。逆に予算カットのために、利用頻度やコスト、代替ツールの有無があるかなどを検討して、特定のデータベースの提供をとりやめたこと



SIBL 館内風景（電子情報センター）

があるという。限られた予算の範囲内なるべく無駄のないように調整している努力を感じた。

また、職員がデータベースの使い方を習得できるように、新規導入時や内容更新時に、ベンダーによる研修を行い、さらに担当職員が講師となって行う職員同士の研修も行っている。新規に配属された職員は、利用者向けの講習をすべて受講して場合に応じたデータベースの使い方を覚えるほか、個々のデータベースの検索要領などは各データベースのヘルプガイドやGoogleなどでガイドを探して読むように薦められているようだ。

② インターネット

インターネット用の端末は約四〇台提供されており、予約をすれば無料で一日一時間三〇分まで利用できる。プリントアウト（有料）も可能である。ただし、利用者が持ち込んだノートパソコンを接続してインターネットや一部のデータベースを利用できる座席が八三席あり、こちらから使用するのであれば時間制限はない。

注一 <http://www.nypl.org/databases/sibldb.cfm> (last accessed 2004.5.7)

四 レファレンス

SIBLでは、ビジネス・産業・科学・政府分野の資料を収集しており、レファレンスは、基本的に蔵書でカバーしている分野について行っている。カウンターでは常時司

書二～三人が質問を受けている。混雑時には一列に並んで順番を待つ利用者の姿も見受けられ、司書の能力への信頼の高さを感じた。カウンターでのやり取りを聞いた限り、質問される事柄は当館のカウンターで受ける質問とさほど変わらない。図書館の利用の仕方や資料のロケーションといった基本的な質問から、あるテーマや事実について調べたいといった込み入った質問まで様々であった。カウンター内の職員はデータベースを駆使して、回答が得られるかどうか可能性を探り、有用な情報が得られた場合に、少量であれば躊躇なくプリントアウトして利用者へ提供していた。

予約をすれば、司書が三〇分個室にてつきっきりでアドバイスをしてくれる制度があるということに対しては驚きを覚えた。利用者が調査を開始する際に、調査の手順や注意点などを体系立てて説明するといったサービスは、司書の能力がよほど高くなければできないであろう。

また、ビジネス関連の資料の探し方、市場調査のための資料リストなど、需要の高い情報に関しては、カウンター



SIBL 館内風景
(右奥がレファレンス・カウンター)

の職員に聞かなくても、館内に配置されている豊富なパンフレット類によって得られるようになってきている。

さらに、起業や経営改善を希望している中小企業経営者などが、個別に経営カウンセリングを受けられるサービスもある。二元管理職者のボランティアに支えられている SCORE (Service Corps of Retired Executives) という NPO によるカウンセリングが、火・木曜日の一一～一九時、金・土曜日の一一～一五時に行われている。カウンセリングでは相談者にビジネスプランを作成させて、それに対する助言を行っていた。

また SIBL では、電話や文書・電子メールによるレファレンスにも、簡単に答えられるものであれば回答しているが、調査が必要な質問に対しては NYPL エクスプレスサービスに誘導している。NYPL エクスプレスは事実調査・マーケットリサーチなどの調査と文献提供を行う有料サービスで、SIBL によるサービスではなく、NYPL 本体によるサービスである。^{注2}このサービスでは最近、E デリバリーという新メニューが加わった。こちらは利用者に要求された文献をスキヤナで端末に読み込み、PDF 形式でウェブ上に掲載するサービスで、電子メールで申込者にアクセス方法を知らせるものである。

注2 阪脇孝子「NYPL エクスプレス—アメリカの公共図書館有料サービスの一例として」『カレントアウェアネス』

二二一号（一九九七年）参照。

五 ホームページ上での主題情報提供

SIBLのホームページでは様々な情報を提供している。ここでは特に注目すべき三つのコンテンツを紹介する。このようなコンテンツを編集することで司書の能力はさらに高まり、レファレンスの効率も良くなるであろう。

①Online Class : Prospecting for Business Information

企業情報・金融情報等を探す際の調査手順を、利用者自身が身に付けることができるよう編集したオンラインによる利用者教育プログラム。利用者が自分の立場を認識するところから始まり、情報を探して、獲得した情報を管理・評価をするところまでを、段階ごとに確認テストを行いながら習得できる。

②NY Small Business Resource Center

「Programs locator」と「Business Owner's Manual」から成る。前者はニューヨークにおける中小企業向けプログラム・関連団体を、キーワードや所在地などで検索できるシステムである。検索結果には、各プログラム・団体の概要や連絡先・URLなどが掲載される。後者は、ニューヨークで起業するためのガイド。ビジネスプラン作成・金融面の計画（資金調達・コスト等）・規制・税金・マーケティング・知財保護・国際取引などについて案内されている。

③Research Guides

企業情報・金融情報等のテーマ別の調べ方案内、統計年鑑・企業名簿を国別に紹介する文献リストなどがある。

六 利用者向け講習

①講習の概要

SIBLでは毎週火・金曜日、一二～一八時半までの時間帯に、一日一～三クラスの利用者向け講習を開講している。一九九六年のSIBLオープン当初は一日に五クラスを行っていたが、予算の関係で開催頻度を減らしたのだそう。基本的に、パソコンを使ってスムーズに検索が行える利用者を対象としているが、近所のNYPL分館で行われているパソコン入門のクラスを案内するなど、パソコン初心者に対するフォローも忘れてはいない。一クラスは七五分で、SIBLの司書がパワーポイントを使用して講義を行う。一科目の講師を担当できる司書は数人いて、逆に一人の司書は、自分の属するチームに関わりの深い複数の科目の講義を担当できるよう訓練されている。繰り返し講師を担当しているため、司書のプレゼンテーション能力は非常に高い。常に科目を新設する試みも行っていて、利用者の意見を取り入れるなどして講習をより良いものにしていこうとする努力を感じる。また、このように定められたスケジュールで不特定多数に対して行う講習のほかに、学生・企業・地域コミュニティなどのグループに対する研修も要望があれば引き受けており、年間平均で六五団体、一、一〇〇～一、二〇〇人の参加者があるそうだ。

②何を教えているのか

SIBLの講習は、図書館を使うために必要な基本知識・

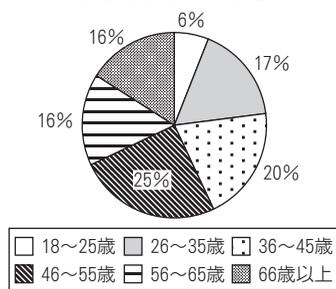
ビジネス／産業情報・政府情報・インターネットとウェブ技術・科学技術情報を柱としている。ホームページ上に二週間分のスケジュールと、各講義の内容を掲載している。滞在中にいくつかのクラスに参加することができた。例えば「企業名簿情報」の授業は、教室がほぼ満員となっていた人気授業である。このクラスでは、まず「冊子の名簿を採す」として、業種別に名簿を紹介しているSIBLのホームページ内のサイトを紹介し、目録で名簿を検索する方法を丁寧に説明した。つづいて「電子情報を使って企業情報を探す」という項目では、おもにReference USAというデータベース（業種・所在地・従業員数・売上高等から企業とその連絡先を検索できる）の検索方法を紹介し、検索結果のダウンロードあるいは印刷方法までを説明した。最後に「検索のコツ」として、検索で思うようにヒットしない場合の注意事項（企業の省略名をフルネームで入力しているかなど）やさらに情報を得る時に使うべきデータベースの紹介などを行っていた。

③アンケートの結果

講習の参加者にはパワーポイントの打出しや資料とともにアンケートを配布し、来館頻度・来館理由・講義の評価・参加者のプロフィール（年齢・学歴等）・要望などを記入してもらっている。開館以来のアンケートをとりまとめた結果によれば、講習参加者は延べ五万五千人以上で、講習参加者の属性に関しては、頻繁にSIBLに来館する人の

割合が高い、学歴が高い人が多い（高卒以下は九割のみ）ということがわかった。参加者の年齢層は、グラフのとおりである。高齢者の割合が意外と高いように感じた。講習のレベルに関しては、ほぼ七〇％の参加者が「ちょうどよい」と回答。「難しすぎる」「簡単すぎる」という回答はどちらも一〇％未満であった。

講習参加者の年齢層



七 やがて

SIBLのサービスを実際に見学して、一貫して大変積極的なサービスを行っている印象を受けた。カウンターでやって来る利用者をただ待つのではなく、検索端末の前でまごついている利用者に声をかける、よく聞かれる事項についてはパンフレットで情報を提供する、目的別の情報を講習やホームページ上で提供する、など。利用者の視点に立ったビジネス支援サービスを計画し、実行しているといえる。著作権処理の制度の違いなどのため、私たちがSIBLと同じサービスを提供することは難しいが、より一層使いやすい図書館を目指して努力していきたい。

（ついで） しほ 主題情報部科学技術・経済課

お知らせ

NDL-OPAC に約250万件追加

平成16年5月、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）に書誌レコード約250万件を追加しました。これまでOPACでは検索できなかった次の資料が検索できます（データ件数は概数）。

<和図書>

文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書（科研費報告書）

12万件

<洋図書>

洋図書（帝国図書館時代から1985年までに整理したもの）

39万件

国際連合出版物など国際機関資料

2万3千件

アメリカ政府刊行物

15万件

<古典籍>

和古書

3万5千件（3月から順次追加）

<蘆原コレクション>

舞踊・音楽評論家蘆原英了氏の旧蔵書と収蔵品であるシャンソン、バレエ、サーカス関係資料

6万8千件

<規格・レポート類>

原子力関係のINISレポートや、航空宇宙関係のNASAレポート等のテクニカルレポートや学協会ペーパー、UMI社発行の海外博士論文

172万件

今回の大規模な追加提供により、NDL-OPACの書誌レコード提供件数は、1,328万件（雑誌記事索引612万件を含む）にのぼり、各専門室で公開していたカード目録等、これまでではご来館いただかないと検索できなかった目録類の大部分がNDL-OPACに収録され、Web上で統一的に検索できるようになりました。残る未入力資料についても、順次適宜入力を進める予定です。また、OPACの機能についても一部追加改修を行いました。ますます充実したNDL-OPAC（当館ホームページ <http://www.ndl.go.jp>—「NDL-OPAC」）を、ぜひご利用ください。

東京本館、関西館の臨時休館等について

利用者サービス拡充のため10月から運用を予定している東京本館の新しい来館利用システムの稼働準備、切替作業の関係で、次のとおり、臨時休館し、また、一部サービスを停止いたします。なお、関西館、国際子ども図書館では、NDL-OPAC（インターネット）サービス停止期間中、開館日でもOPAC検索・申込みが利用できません。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご了承ください。

東京本館臨時休館日

6月22日～25日、7月26日、8月2日～3日、
9月22日、9月24日、9月27日～30日

関西館臨時休館日

6月22日～24日

NDL-OPAC（インターネット）検索および申込みサービス停止

6月20日～21日、6月25日～27日、9月19日～23日

NDL-OPAC（インターネット）申込みサービス停止

NDL-OPACでの検索はできますが、申込みができません。

6月22日～24日

なお、NDL-OPACが停止する期間は、郵送・FAXによる複写申込み、貸出申込みについても発送が遅れます。

国立国会図書館の編集・刊行物

参考書誌研究 第六〇号 A5 一六八頁

日本を調べるための日本の参考図書―統計資料のレファレンス・ガイド―

渋江抽斎没後の渋江家と帝国図書館

明治二十年九月中村座の絵本・役割番付―

影印と翻刻および周辺資料（下）

半年刊 一、五七五円（日）

レファレンス 第六三九号 A4 八〇頁

保育分野の規制緩和と改革の行方

国際法と先制的自衛

島根県における経済・金融の動向（現地調査報告）

OECD諸国における失業時の生活保障関連「給付」一覧（資料）

月刊 税・送料込み 八三二円（有）

入手のお問い合わせ

（日）日本図書館協会 104-0033 東京都中央区新川1-2-14

（有）有隣堂印刷株式会社 140-0004 東京都品川区南品川6-1-10

（有）有隣堂印刷株式会社 140-0004 東京都品川区南品川6-1-10

特に記載のないものは税込価格です。

第8回 資料保存研修

国立国会図書館では、国内の各種図書館等に在職する職員の方を対象に、日常業務の中でできる、軽微な破損などに対する補修技術の研修を、下記のとおり関西館を会場に開催いたします。なお、内容は昨年（第7回）と同じです。

テーマ あなたにもできる図書館資料の補修
－表紙と本体をつなぐ修理、簡易補修、パンフレット製本－

日時 平成16年7月8日(木) 10:00～16:30
7月9日(金) 10:00～16:30

会場 国立国会図書館関西館第3研修室（京都府相楽郡精華町精華台8-1-3）

内容 午前：講義と研修教材による実技指導
午後：研修生持参の資料による実技研修
ほかに、希望者による関西館施設見学を予定。

定員 32名。両日とも16名。1機関1名とします。

持参していただくもの

上製本で表紙と本体が分離している図書（A5判またはB5判で厚さ3cm程度のもの）1冊、エプロン等

申込方法等 葉書に、氏名・所属機関・勤務先住所・電話番号・メールアドレス、8日、9日のいずれかの受講希望日を明記のうえ、平成16年6月18日(金)必着でお申し込みください。なお、申込み多数の場合はやむをえず参加をご遠慮いただくことがあります。また受講日についてもご希望にそえない場合がありますので、あらかじめご了承ください。参加費は無料です。受講日、持ち物等、詳細は後日、参加者にご連絡いたします。

申込み・問い合わせ先

国立国会図書館収集部資料保存課
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03(3506)3356（ダイヤルイン）

国立図書館サービスに関する国際会議

二〇〇四年三月一五、一六日の両日、インドのコルカタ(旧カルカッタ)で、国立図書館サービスに関する国際会議(International Conference on National Library Services, ICONILIS 2004) が開催された。

当館からは村上正志関西館資料部長(当時)が出席し、「国立国会図書館のサービスの現況と今後の方向」と題する発表を行った。この会議は、インド国立図書館の一〇〇周年記念事業の一環として開催された。その趣旨は、情報・通信技術の発展により、情報の収集・蓄積・整理・アクセスにおける伝統的な方法が変革を迫られる中で、国立図書館が提供するサービスの再点検を行うことであった。

システムとサービス、蔵書構築と書誌調整、情報技術、標準化と国際協力、資料保存、マーケティングと利用者ニーズの六テーマについて、約二〇か国から五〇人が発表し、熱心な議論が行われた。中国、タイ、シンガポール、ブータン、パキスタン等のアジア諸国のほかロシア、ギリシャ、南ア

フリカ、米國、英國、オーストラリア等各国の国立図書館の職員が参加した。

納本制度審議会 ネットワーク系電子出版物の収集の課題に関する小委員会(第三回)の開催

平成一六年三月三〇日、標題の小委員会(公文俊平小委員長)が国立国会図書館(東京本館)において開催された。

今回は、ネットワーク系電子出版物(以下「ネットワーク系」)の収集範囲および方法の第二回目の調査審議が行われた。

まず、第一回の小委員会からの継続審議事項である独立行政法人、国立大学法人等を国・地方公共団体と同等に扱うべきかについて、また、国・地方公共団体・独立行政法人等のために発行されたネットワーク系の取扱いについて調査審議が行われた。次に、私人の発行するネットワーク系の収集範囲と収集方法について調査審議が行われた。

収集範囲については、義務付けを伴う収集において学術的内容のネットワーク系に

限定することが法制度的に可能かどうかの検討が行われた。

収集方法については、通知義務に基づく収集(発行者に発行の事実を国立国会図書館に通知すべき義務を課し、館が複製する方法)または送信義務に基づく収集(発行者にネットワーク系を館のサーバに送信・複製させる方法)の意義・内容について、特に、納本制度調査会答申(平成一一年二月二日)において指摘されている言論の萎縮のおそれ(一過性のものとして発行されることが多いネットワーク系を永続的に固定する義務を課し利用に供することは、発行者等の意思に反し、自由な言論を差し控えさせるおそれがある)の問題を解決するためにこれらの収集方法が有効であるかどうかについて検討が行われた。

今後の予定としては、第一回納本制度審議会(本年六月頃開催予定)において今回までの小委員会の審議経過の報告とその審議が行われた後、収集・利用に伴う損失補償および義務履行の確保の手段について、第四回小委員会が開催される予定である。

月例報告

(法律第二十九号)

日本学術会議法の一部を改正する法律

館支部内閣府図書館の項の次に次のように加える。

国立国会図書館支部日本学術会議図書館	内閣府
--------------------	-----

(抄)
(平成十六年四月十四日公布)

附則(抄)

(施行期日)

(館長決定第三号)

法規の制定

解説

法律第二十九号は、日本学術会議について所轄を総務大臣から内閣総理大臣に変更する等の改正を行ったものであり、当館関係では、国立国会図書館法の規定により行政各部門に置かれる支部図書館及びその職員に関する法律(昭和二十四年法律第百一号)第一条の表を改正し、支部日本学術会議図書館の規定の位置を変更したものである。

館長決定第三号は、電子図書館基盤システムの一部の新規稼働に伴う書類の様式の改正その他所要の規定の整備を行ったものである。

館長決定第四号は、第一種資料の逐次刊行物に押印できる所蔵印の種類を追加したものである。

第一条 この法律は、平成十七年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 (略)

二 第一条第二項、第六条の二第二項及び第十六条第三項の改正規定並びに附則第五條第一項(内閣総理大臣に推薦することに係る部分に限る。)、第七条及び第九條から第十一条までの規定 平成十七年四月一日

(国立国会図書館法の規定により行政各部門に置かれる支部図書館及びその職員に関する法律の一部改正)

第九条 国立国会図書館法の規定により行政各部門に置かれる支部図書館及びその職員に関する法律(昭和二十四年法律第百一号)の一部を次のように改正する。

第一条の表国立国会図書館支部日本学術会議図書館の項を削り、同表国立国会図書館

国立国会図書館資料管理事務取扱細則の一部を改正する件

(平成十六年四月十六日制定)

国立国会図書館資料管理事務取扱細則(平成元年館長決定第十二号)の一部を次のように改正する。

第二十五条を次のように改める。

(異動の記録を省略することができる資料)

第二十五条 規程第三十三条の規定により異動の記録を省略することができる資料の品目は、国内逐次刊行物の新聞(専ら記事の切抜き用の用に供するために第二種資料として受け入れたものに限る。)とする。

様式第一号を次のように改める。

森田 誠一 印 (張)

附則

本件は、平成十八年五月六日から施行する。ただし、第二十五条の改正規定は、同月一日から施行する。

(館長決定第四号)

図書館資料の標示に関する件の一部を
改正する件

(平成十六年四月十六日制定)

図書館資料の標示に関する件(平成二年館
長決定第一号)の一部を次のように改正する。
第五項中「様式第四」を「様式第三」に改
める。

附則

本件は、平成十六年四月十六日から施行す
る。

おもな人事

農林水産技官 香山 慎祐

国立国会図書館支部林野庁図書館長に命ずる

会計検査院事務官 井ヶ田 禮子

国立国会図書館支部会計検査院図書館長を免
ずる

会計検査院事務官 山崎恵美子

国立国会図書館支部会計検査院図書館長に命
ずる

以上平成十六年四月一日付け

——平成十六年春の叙勲——

元職員に対し左記のとおり叙勲があった

記

瑞宝重光章を授ける
(元副館長) 藤田初太郎

(元専門調査員) 野村 文保

瑞宝中綬章を授ける

(元調査員) 山本 祐三

瑞宝小綬章を授ける

(元司書) 大貫 利夫

瑞宝双光章を授ける

(元調査員) 亀井 慶子

瑞宝双光章を授ける

以上平成十六年四月二十九日付け

——職員の採用——

(配置部局課)

総務部 参事 吉田 暁

同 同 今野 玲子 国会分館

同 同 大西 啓子 同

同 同 石澤 文 同

同 同 清水 邦彦 同

同 同 深澤 映司 同

同 同 美野輪和子 同

同 同 堤 健造 同

同 同 濱井 暁子 同

同 同 三野 功晴 同

同 同 那谷 玲

同 同 濱川今日子

同 同 安田 隆子

同 同 前川 直之

同 同 岡橋 明子

同 同 倉重 卓也

同 同 小濱 彩

同 同 柴田 洋子

同 同 大谷 昌俊

同 同 中島 寛

同 同 河合 将彦

同 同 平山 藍子

同 同 藤本 守

同 同 奥村さやか

同 同 田中 俊洋

同 同 葦名 ふみ

同 同 高野 哲

同 同 中尾 康朗

同 同 大久保知子

同 同 松田 稔広

同 同 以上平成十六年四月一日付け

同 同 なお、前記の職員は、研修を受けた後、平

同 同 成十六年四月八日までに前記部局に配属され

同 同 たものである。

遠客近客

(東京本館)

平成一六年

三月一日 デイヴィッド・シーマン氏(米国・デジタル・ライブラリー・フェデレーション・ディレクター)、メネリク・アレム氏(エチオピア・法務局参事官)

三月三日(～五日) ヨハン・ステーンバックス氏(オランダ国立図書館情報技術・施設管理部長)、ハンス・ヤンセン氏(同研究開発課長)、ヒルデ・ファン・ウイ

ンハーデン氏(同研究開発課電子情報保存担当官)

三月五日 タチャーナ・オレゴブナ・パウヴァ氏(全ロシア国営テレビ・ラジオ会社副総裁、「文化チャンネル」テレビ編集長)、アレクサンドロヴィッチ・ゴリジン・ユリー氏(ロシア・「文化チャンネル」テレビ総監督)

三月九日 ドミトリー・イワノヴィチ・ゴロホフ氏(ロシア・イタル・タス通信対外政策情報編集長)

三月一七日 ピラルル・マリア・モレーノ氏(メキシコ大学院図書館司書)

三月二六日 信州大学附属図書館一名
三月三〇日 ジャッキー・ブロック氏(英国)

(関西館)

平成一六年

三月三日 神奈川県立川崎図書館二名
三月五日 東濃地区公共図書館連絡協議会
三月九日 二名、南淡町立図書館協議会八名

三月一八日 東北大学図書館一名
三月一八日 松本市中央図書館一名

三月一九日 九州大学文学部図書係二名
三月二二日 九州大学附属図書館芸術工学分館一名

三月二六日 学校図書館問題研究会兵庫支部八名

三月には、このほかに、* * * * *

大学関係(司書課程等) 一件八名、その他一二二件六八九名の見学・参観を行った。

(国際子ども図書館)

平成一五年

一月五日 静岡県立中央図書館三名
一月二二日 福生市立図書館一名
一月二五日 韓国国際児童図書評議会一五名

一月二七日 三鷹市図書館協議会二一名
二月二日 韓国国会図書館四名

平成一六年
一月二二日 東京都立日比谷図書館一〇名

二月四日 茨城県立図書館三名

二月六日 群馬県立図書館二名
二月二四日 東京都立中央図書館三名、群馬県立図書館二名

二月二五日 韓国図書館協会二七名
二月二七日 金沢市立玉川図書館二名

三月一〇日 大島町絵本館一名
三月一八日 高知県立図書館一名

三月三日 大島町絵本館一名

平成一五年一月～一六年三月には、このほかに、* * * * *

学校関係九件一三三名、大学関係(司書課程等) 三件二六名、その他七四件一、〇二二名の見学・参観を行った。

見学・参観の申込み

詳しくは左記にお問い合わせ下さい。

国立国会図書館資料提供部

利用者サービス企画課総括係

☎〇三(三五八二)二三三三

内線二六一一〇

国立国会図書館関西館総務課総務係

☎〇七七四(九八)一二二四(直通)

国際子ども図書館企画協力課企画広報係

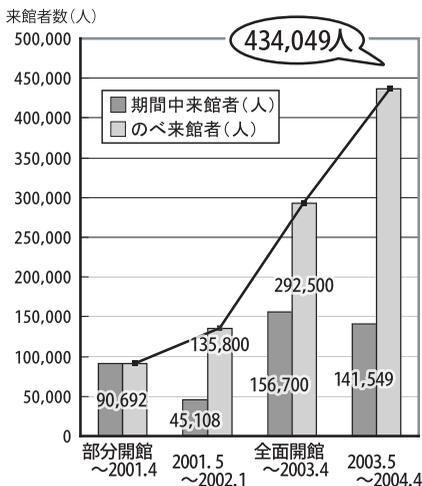
☎〇三(三八二七)二〇五三内線二〇六

■ 開館5年目に入りました！

国際子ども図書館が2000年5月5日に上野で産声を上げて以来、4年の年月が経過しました。建物の3分の1を活用して活動をおこなった部分開館時(2000年5月から2002年1月)の約2年間、すべての改修工事を終え全館利用が可能になった2002年5月から現在までの2年間。この間、来館された利用者は右図のとおり、のべ約43万人(2004年4月現在)を数えます。

部分開館時は書庫もなく、所蔵資料のほとんどを東京本館においたままで活動していました。書庫ができ30万点を超える資料を所蔵する現在とは比較もできない状況でした。

開催した展示会は計17回。現在開催中の「蓮の花の知恵」は18回目の展示会になります。レファレンス・サービスや複写サービスの充実、公共図書館等との図書館協力事業、学校図書館セット貸出しを中心とした学校図書館との連携、海外関係機関との連携など…この4年間に積み重ねてきた活動を今後一層充実させていきます。



■ 講演会のご案内

展示会「蓮の花の知恵ーインドの児童文学」関連イベント

「アジアの子どもの本と私」

【講師】 松居 直 氏 (福音館書店相談役)

【日時】 7月3日 土曜日 午後(時間未定)

申込方法など詳しくは下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先：国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課 企画広報係
電話：03-3827-2053

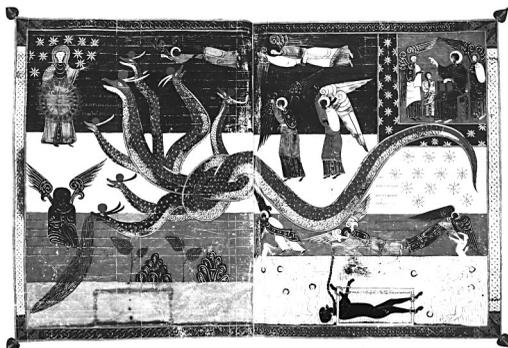
本を魅せる 常設展示案内 (7)



第131回常設展示 記録の中の「幻獣」たち 平成16年5月1日～6月30日

我々は竜といえば、その姿や性質を思い浮かべることができます。つまり、竜は実在しないと知りつつも、竜に関する知識は持っているわけです。では、その知識は、元をたどればどこから来たのでしょうか。今回の展示では、東西の古典を比較しつつ、竜をはじめ、一角獣、フェニックス、人魚といった「幻獣」たちに関する知識の源流をたどってみました。

現在、我々はこれらの「幻獣」たちを、児童書、マンガ、テレビゲームなどで目にするのが多いため、いささか子どもじみたもののように思いがちです。しかし、「幻獣」たちに関する知識の源流をたどってみると、人間はこれらを象徴として用いることにより、抽象的で実感しにくい概念について考えてきたことが分かります。例えば、『新約聖書』のヨハネ黙示録の竜は悪の象徴です。赤く巨大な竜がもたらす直接的なイメージを通じて、個別の事例を超えた「悪というもの」が表現されています。一方、後に漢の初代皇帝となる農民出身の男（劉邦）が酔っぱらって寝ていたとき、その上に見たと司馬遷の『史記』が伝えている竜は、王の象徴です。結果的に見て、彼にはいわば王の資質や、王になる運命のようなものがあつたと考えられるわけですが、ここではそれが竜を通じて表現されています。



「太陽をまとう女と竜」
（『ベアトウス黙示録註解』〈請求記号 YP9-107〉）

確かに現在では、竜は実在しないものとされています。しかし一方で、竜は象徴として、今も我々の意識の中に存在しています。地名・人名、寺社の装飾、ラーメンのどんぶりなど、身近なところに竜が見られるのはそのためです。これらの竜は、強さや神聖さといった、抽象的で実感しにくい概念を象徴しているのです。なお、こうした象徴は、「幻獣」たち以外にも数多く見られます。例えば、広告、音楽、モードなどに乗って、商品やブランドのイメージが飛び交っていますが、これらはそれぞれ、消費や欲望の対象となる諸価値を象徴しているといえます。

皆さんは、竜、一角獣、フェニックス、人魚といえば、どのような姿や性質を思い浮かべられるでしょうか。そのイメージのもとになったものは何か、それらは何を象徴しているのか、洋の東西でどのような違いがあるのかなど、楽しんでいただければ幸いです。



い だ あつひこ なかむら じゅんいち
（井田 敦彦・中村 淳一）

国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

館内利用サービス

利用できる人 誰でも利用できます（ただし資料室は18歳以上）。

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

サービス時間 9:30～17:00

休館日 月曜日、国民の祝日・休日（5月5日こどもの日は除く）、年末年始（12月28日～1月4日）、資料整理休館日（毎月第3水曜日）

休室日 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第1・2資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122（代表）

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

国立国会図書館月報

平成16年5月号（No.518）

発行所	国立国会図書館	平成16年5月20日発行	定価231円 (税込、送料別)
編集 責任者	塚本 孝	印刷所 発売元	有隣堂印刷株式会社
〒100-8924	東京都千代田区永田町一丁目10番1号 電話 03 (3581) 2331 (代表) FAX 03 (3597) 5617 E-mail geppo@ndl.go.jp	〒140-0004	東京都品川区南品川六丁目2番10号 電話 03 (5479) 8721 (代表) FAX 03 (5479) 8720 E-mail cap15650@pop01.odn.ne.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。

本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜きすいて転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。

表紙 中性紙使用
本文 中性再生紙使用

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No. 518 May 2004

CONTENTS

<i>Ningyo hyakusyu</i> illustrated by Shimizu Seifu (Random notes on rare books, 435)	
Remodeling of the Tokyo Main Library and its new services for on-site users	1
Changes in information environment and the roles of NDL - 44 th meeting of the Council on Organization of Materials on Science and Technology-	5
Tidbits of information on NDL	8
Announcement of regular exhibition	8
Information services in science and technology in the Internet age - Copying service for remote users since the opening of the Kansai-kan-	
Business, Science and Technology Division, Reference and Special Collections Department and Public Services Division, Collections Department, the Kansai-kan	9
Present and future of the Collaborative Reference Database System	16
Books not commercially available (Report of official trip abroad)	22
Outstanding business information services at the SIBL, New York Public Library	Shiho Ueda 23
<Announcement>	
2.5 million data added to the NDL-OPAC	28
Temporary closing of the Tokyo Main Library and the Kansai-kan	29
Publications from NDL	29
<Invitation>	
8 th Preservation and Conservation Training Program	30
NDL news	31
Monthly official report	32
Visitors to NDL	34
International Library of Children's Literature page	35
Imaginary creatures in the records (Enchanting world of books - Guide to regular exhibitions, 7)	36

NATIONAL DIET LIBRARY

Tokyo